

基本的方向1 子どもの姿



目 標

自分や他人を大切にし、社会の中でたくましく
生きていくことのできる子どもを育てる

未来へ向かって成長し、未来を担う子どもに、これからの社会をよりよく生きていく力を育むことは、とても重要なことです。

将来の予測が明確にならない現在の社会にあっては、自らの生涯を切り拓く力強さと、他人と協働してよりよい社会を築こうとする頼もしさがが必要です。このため、強い意志をもって主体的に考え行動する力と、他と協調しつつともに社会を支える力を育み、社会の中でたくましく生きていくことのできる子どもを育てます。

《施策一覧》

1-1	自分を大切にし、他人を思いやる気持ちを養い、豊かな心を育む	P. 8-13
1-1-1	人と関わる力を身に付ける活動の充実	P. 9
1-1-2	命を大切にする教育の推進	P. 10
1-1-3	道徳教育の充実	P. 11
1-1-4	体験活動の充実	P. 12
1-1-5	読書教育の推進	P. 13
1-2	基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図り、活用する力を育成する	P. 14-16
1-2-1	確かな学力を育成する取り組みの推進	P. 15
1-3	健康に関する意識を高め、健やかな体を育成する	P. 17-21
1-3-1	望ましい生活習慣を身に付ける取り組みの推進	P. 18
1-3-2	食育の推進	P. 19
1-3-3	体力向上の取り組みの推進	P. 20
1-4	社会的な問題に関する認識を深め、意欲と実践力を育む	P. 22-26
1-4-1	環境学習の充実	P. 23
1-4-2	情報教育の推進	P. 24
1-4-3	キャリア教育の推進	P. 25
1-4-4	防災教育の推進	P. 26
1-5	日本や郷土市川の歴史や文化を学び、国際社会の中で生きる力を育む	P. 27-30
1-5-1	歴史や文化に関する教育の推進	P. 28
1-5-2	外国語教育・国際理解教育の推進	P. 30

◇施策の方向1-1 自分を大切にし、他人を思いやる気持ちを
養い、豊かな心を育む

○重点事業の点検

《施策1-1-3関連》

事業名	学校支援実践講座事業
事業概要	いじめ問題をテーマとした社会人権講座を行うと共に、受講者が地域支援者となり、小中学生との交流会を実施し、学校が行ういじめ未然防止の取り組みを支援する。
計画 (具体的な取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・年間5回の人権講座の開催 ・千葉大学藤川教授による教育講演会の開催 ・13校69学級での小中学校交流会実施(28年3月時点での見込)
実績 (活動及び効果)	年間5回の人権講座を開催し、千葉大学藤川教授に「いじめの問題をどう捉えるか」・「地域で取り組むいじめ問題」と2回講演会を開催した。年度当初に再度希望調査をしたところ、13校(小9・中4)57学級(小35・中22)から希望があり、学級閉鎖等で55学級で交流会を実施した。児童・生徒のアンケートには、交流会を通して、自分の考えだけでなく友だちの意見に耳を傾けることで、多様な考えがある事に気づき、自分の行動や言動の振り返りや相手の立場になる大切さなどの考えを深め、視野を広げる時間となった。交流会を行った、学級担任アンケートでは、事業全体について「有効性が高い」・「ある程度効果は期待できる」で100%の結果となり、受講者である地域支援者も98%の結果となった。今年度の新しい取組として、第六中学校では、学校支援コーディネーターが中心となって学校と連携して、交流会に取り組んだ。
進捗	B

《施策1-1-5関連》

事業名	小学校・中学校図書館資料整備事業
事業概要	教科書の学習内容に合った図書や、探求的な学習において有効に活用できる図書を購入し、学校図書館資料の充実を図ることにより、図書館を効果的に活用した教育を推進する。
計画 (具体的な取り組み)	児童・生徒が多様な読書活動や学習活動での活用ができるよう、学校図書館資料を整備していく。特に、小学校では、大畑恣教育基金を活用し、学校図書館資料の拡大を図る。
実績 (活動及び効果)	教科書の内容に沿った図書を購入したことで、授業への理解が深まり、文部科学省が示す学校図書館の積極的な活用がなされ、更に児童・生徒の課題解決能力の育成を促した。
進捗	B

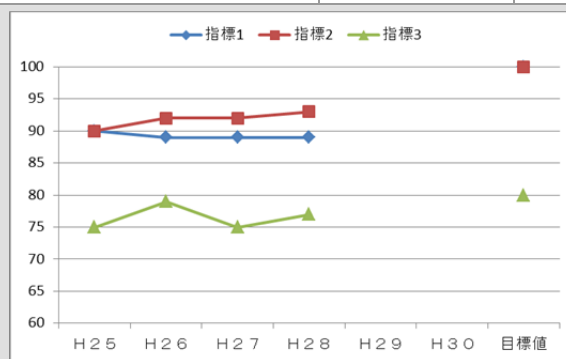
1-1-1 人と関わる力を身に付ける活動の充実

人と関わる力を身に付け、望ましい人間関係をつくるために、学校生活や地域活動などを通して、相手の話をよく聞いたり、自分の思いを相手に伝えたりして、たがいの価値観を認め合う力を育成します。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H27	H28	目標 (H30)
1	「進んで挨拶をする」と回答する児童生徒の割合	89% 小：90% 中：88%	89% 小：90% 中：88%	100%
2	「人の話や考えをよく聞くことができる」と回答する児童生徒の割合	92% 小：92% 中：93%	93% 小：92% 中：94%	100%
3	「自分の考えや思いを伝えることができる」と回答する児童生徒の割合	75% 小：75% 中：76%	77% 小：77% 中：78%	80%



2. 施策の現状・課題

施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って、施策のさらなる推進を図る。

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
創意と活力のある学校づくり事業 (学校教育三カ年計画の推進)	豊かな心を育てるために、人との関わりを重視した学校づくりを支援する。
青少年指導者育成事業	小学生、中学生、高校生及び大人向けの青少年指導者育成講習会を開催し、青少年指導者を育成することで、地域の青少年育成活動の活性化を図る。

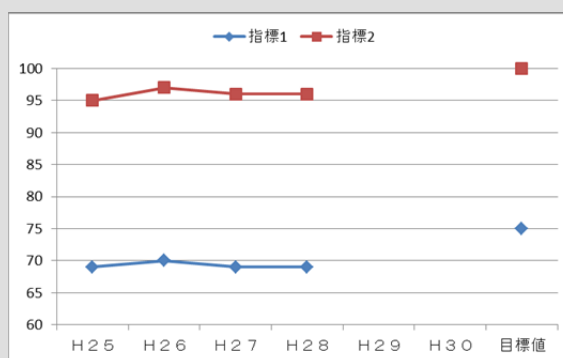
1-1-2 命を大切にする教育の推進

自分の命はもちろん、他人の命も大切にする意識を育みます。また、自分の良いところをたくさん見つけ、それを伸ばしていくことで、自分はかけがえのない存在と認めることのできる教育を進めます。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H27	H28	目標 (H30)
1	「自分には良いところがある」と回答する児童生徒の割合	69% 小：77% 中：61%	69% 小：77% 中：61%	75%
2	「友だちや動植物を大切にする気持ちをもっている」と回答する児童生徒の割合	96% 小：96% 中：96%	96% 小：96% 中：96%	100%



2. 施策の現状・課題

施策の実現がおおむね図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って、施策のさらなる推進を図る。
引き続き、生命尊重の心の育成に努める。

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
創意と活力のある学校づくり事業 (学校教育三ヵ年計画の推進)	豊かな心を育てるために、命を大切にする教育や自己肯定感を高める教育を重視した学校づくりを支援する。
薬物乱用防止の取り組み (健康教育)	薬物乱用を防止するために、薬物の恐ろしさを正しく理解し、薬物に関する正しい知識を身に付けることができるよう、乱用防止教室などの充実を図る。

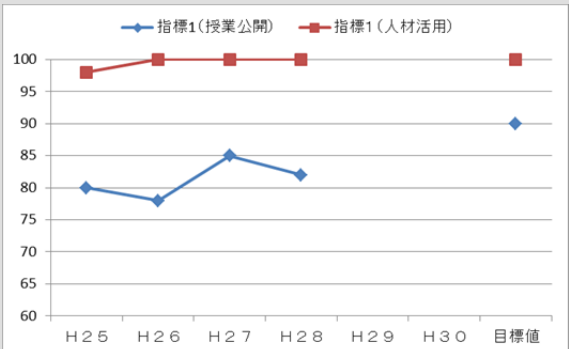
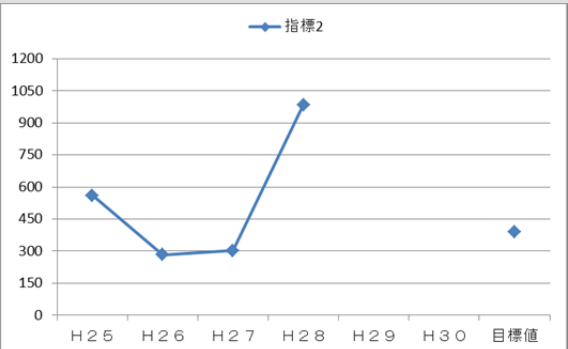
1-1-3 道徳教育の充実

道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うため、「道徳の時間」を中心に、学校の教育活動全体を通じた道徳教育の質の向上を図ります。また、人権意識を高め、いじめを許さない心を育成します。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H27	H28	目標 (H30)	
1	家庭・地域と協力して道徳教育を進めた学校の割合	授業公開	85%	82%	90%
		人材活用	100%	100%	100%
2	学校におけるいじめの認知件数 [※]	303件 小：183件 中：120件	984件 小：832件 中：152件	390件	

※いじめは決して許されないことだが、現実的にはどの学校でもどの子どもにも起こり得るものである。いじめの認知件数は、いじめの兆候をいち早く把握する取り組みが数値として表れたものであり、いじめの解消に向けた積極的に取り組みの状況を表す施策3-3-4の成果指標「いじめの解消率」と併せて成果指標を見る必要がある。

2. 施策の現状・課題

施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って、施策のさらなる推進を図る。
今後も認知件数はもとより、解消率の向上に向けた取り組みを進めていく。

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
創意と活力のある学校づくり事業 (学校教育三ヵ年計画の推進)	豊かな心を育てるために、教育活動全体を通して道徳教育に取り組む学校づくりを支援する。

1-1-4 体験活動の充実

学校や地域社会において、異年齢の子どもとの交流、ボランティア、福祉体験活動、集団宿泊活動、自然体験活動、文化芸術体験活動など体験活動の充実を図ります。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H27	H28	目標 (H30)
1	少年自然の家利用者数 ※宿：宿泊利用者 日：野外炊事等の日帰り利用者 プ：プラネタリウムのみ利用者	15,054人 宿：8,213人 日：4,682人 プ：2,159人	15,181人 宿：8,520人 日：3,038人 プ：3,623人	17,000人
2	「コミュニティークラブの活動を楽しむことができた」と回答するコミュニティークラブ体験活動参加者の割合	96%	94%	95%

指標1

指標2

2. 施策の現状・課題

施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って、施策のさらなる推進を図る。

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
創意と活力のある学校づくり事業 (学校教育三ヵ年計画の推進)	豊かな心を育てるために、体験活動を重視した学校づくりを支援する。
コミュニティークラブ事業	地域性を活かしながら「遊び」を通して、子どもたちが主体的に関わる様々な体験活動や豊かな対人関係を築いていくために、異年齢交流・世代間交流が図られる事業を実施している。
体験学習事業(農業体験)	市内にある親子ふれあい農園を活用して、稲作体験や畑作体験の機会を提供する。
野外活動	少年自然の家を利用する団体が行う野外活動を支援するとともに、野外活動を含む行事を主催し、野外体験活動を推進する。

1-1-5 読書教育の推進

豊かな心を育むために、読書コミュニティ※をはじめとする、多様な読書活動や学習活動での図書の活用など、幼児期からの読書教育を推進します。また、図書館の役割が重要であることから、図書館資料の整備、学校図書館相互や公共図書館とのネットワークの積極的な活用など、図書館機能の充実を図ります。

※読書コミュニティ…家庭・学校・地域が一体となって読書活動を進め、読書を囲んだ子育てを進める地域社会

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H27	H28	目標 (H30)
1	「読書が好き」と回答する児童生徒の割合	79% 小：81% 中：78%	79% 小：81% 中：77%	85%
2	学習活動などで、学校図書館を利用した授業時間数	40,152 時間 小：32,167 時間 中：7,985 時間	41,777 時間 小：34,787 時間 中：6,990 時間	42,000時間

指標1

年度	割合 (%)
H25	77
H26	78
H27	79
H28	79
目標値 (H30)	85

指標2

年度	時間数
H25	40,000
H26	45,000
H27	40,000
H28	42,000
目標値 (H30)	42,000

2. 施策の現状・課題

施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って、施策のさらなる推進を図る。

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
創意と活力のある学校づくり事業 (学校教育三ヵ年計画の推進)	豊かな心を育てるために、読書活動を重視した学校づくりを支援する。
学校図書館支援センター事業 (学校図書館と公共図書館とのネットワークの活用)	学校図書館を支援するスタッフを学校に派遣するとともに、学校図書館及び公共図書館の図書資料を共有して利用する情報・物流ネットワークを運営し、学校図書館機能の充実を図る。
学校司書配置事業	正規の学校司書(常勤)が配置されていない学校に非常勤職員を配置し、学校図書館の充実と、図書館を活用した教育の推進を図る。
読書コミュニティの推進	家庭・学校・地域が連携し、読書活動を核としたさまざまな活動を通して、児童生徒の健全育成を図ることができるよう、ネットワーク構築の支援を行う。

◇施策の方向1-2 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図り、
活用する力を育成する

○重点事業の点検

《施策1-2-1 関連》

事業名	校内塾・まなびくらぶ事業
事業概要	基礎的・基本的な内容を放課後及び長期休業中等において学習の場を設けることにより、基礎的な学力の定着を図る。
計画 (具体的な取り組み)	全校で実施し、学校規模や、二ーズの高さに応じて事業の充実・拡充を図っていく。
実績 (活動及び効果)	19学級以上の大規模校に増額配当を行い、特に中学校では、まなびサポーターの配置人数が増加し、拡充を図ることができた。小学校では、配置人数が減少しており、まなびサポーターの確保が課題である。また、3年目を迎え、学習内容や方法の工夫改善も行っていく必要があるため、各校の取り組みを集約し、良い取り組みを全校に紹介している。
進捗	B

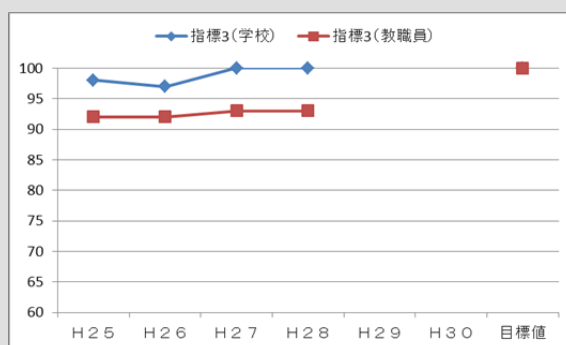
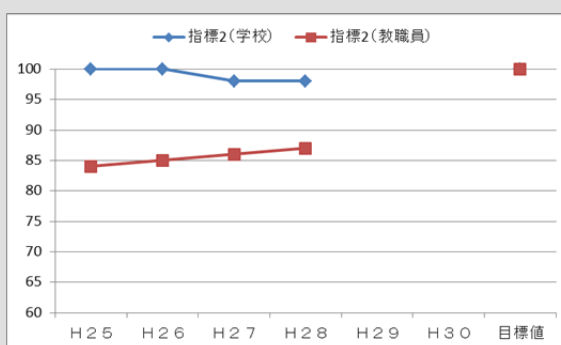
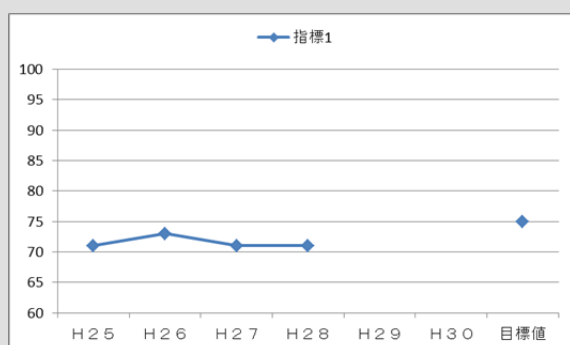
1-2-1 確かな学力を育成する取り組みの推進

基礎的・基本的な内容を確実に習得し、個に応じた学びを充実させるために、指導方法の改善と学習環境の整備に取り組みます。また、身に付けた知識や技能を学習や生活に活用していく力を高めるために、問題解決型の学習をさらに充実します。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H27	H28	目標 (H30)	
1	「学校の勉強が楽しい」と回答する児童生徒の割合	71% 小：80% 中：59%	71% 小：80% 中：61%	75%	
2	問題解決的な学習を重視して、年間を通して、言語活動※や体験活動を意欲的に授業に取り入れている学校・教職員の割合	学 校	98%	98%	100%
		教職員	86%	87%	100%
3	児童生徒の実態に応じ、生徒指導の機能を生かした授業※づくりに取り組んでいる学校・教職員の割合	学 校	100%	100%	100%
		教職員	93%	93%	100%



※言語活動…「話すこと・聞くこと」や「書くこと」、「読むこと」に関する基本的な国語の力を定着させたり、言葉の美しさやリズムを体感させたりする活動

※生徒指導の機能を生かした授業…教師と子ども、子ども同士の良好な人間関係のもと、教師の一方的な説明ではなく、子どもが自分の力で課題を解決し、教師からも子どもからも認められる充実感のある授業

2. 施策の現状・課題

施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って、施策のさらなる推進を図る。

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
創意と活力のある学校づくり事業 (学校教育三ヵ年計画の推進)	確かな学力を育成するために、問題解決型の学習を重視したり、生徒指導の機能を生かした授業づくりを進めたりする学校づくりを支援する。
少人数学習等担当補助教員事業	小中学校に補助教員を派遣し、少人数指導やチームティーチングなど、わかりやすい授業やきめ細やかな指導を充実する。
学校図書館支援センター事業 (文部科学省委託による学校図書館事業)	学校図書館の機能の高度化を図り、学校図書館を活用した学習活動の効果的な指導に関する研究を進める。
学校環境整備事業 (新しい教材やソフトウェアの導入)	新しい学校教材などの導入を図り、学校の環境整備を関係所管課と協議し進める。
コンピューター教育振興事業	学習支援システムを活用し、児童生徒の学習の充実を図る。
各種作品展事業 (児童生徒科学展、こども作品展、新聞展)	児童生徒が学習の成果を発表できる機会を作品展などとして設け、表現力や感性の育成を図る。
音楽会活動事業 (児童生徒音楽会、地区別音楽会、音楽フェスティバル)	児童生徒が学習の成果を発表できる機会を音楽会として設け、表現力や感性の育成を図る。

◇施策の方向1-3 健康に関する意識を高め、健やかな体を育成する

○重点事業の点検

《施策1-3-3関連》

事業名	体力向上推進事業
事業概要	児童生徒の体力向上を目指し、運動生活を豊かにすることを基本とした健康・体力づくりを推進する。市川市運動能力証を交付し、体力向上への意欲の向上を図る。また、児童生徒の活動欲求に応え、一人一人がスポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって充実したスポーツライフを実現するために、トップアスリートとの交流の機会を設けるとともに、地域の指導者の参画を求め、部活動や部活動に準じるクラブの振興を図る。
計画 (具体的な取り組み)	小学生の体力向上をめざし、1学期に『走る、跳ぶ』ことを基本とした単元を組み入れるとともに、小中体連主催の大会行事と体育の授業を相互に関連させながら、教育活動全体を通して基礎体力向上に向けた取り組みを行う。さらに、年度当初に走る、跳ぶ、投げる力を伸ばすための指導法研修会を実施することを通して児童の体力向上を図る。 また、小・中学校の部活動や部活動に準じるクラブの振興を図るため、積極的に地域指導者の参画を求めることや、トップアスリートとの交流及び企業との連携による体育・保健体育の授業の充実による体力向上の啓発を行う。
実績 (活動及び効果)	年度当初に走る運動（運動遊び）、陸上運動を配置した指導計画のひな形を提示して、各学校において、指導計画を作成するための支援を行った。この取組においては、まだはっきりとした成果は見られていない。走る、跳ぶ、投げることについては、新体力テストの測定における指導方法として各小学校1名以上の悉皆研修として実施した。 部活動及び部活動に準じるクラブの振興、そして子どもたちの活動欲求に応えることについては、全体として52名の地域指導者に指導にあたっていただくことができた。 さらに、クボタ、NTTコミュニケーションズ、ロッテマリーンズにより20校余りの小学校で各種教室を開催するとともに、京葉ガスの地域連携を通して、4校の中学校で柔道の授業支援を実施していただくなど、児童生徒の運動への取り組み意欲の向上や、武道授業の充実に努めた。
進捗	B

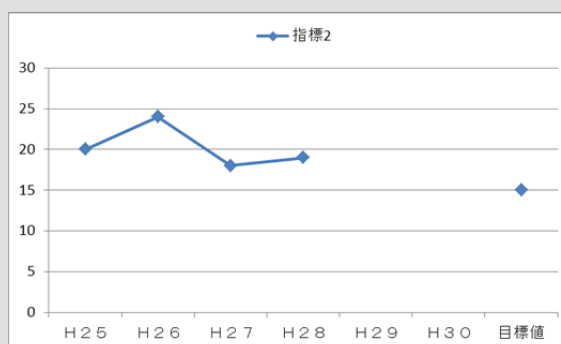
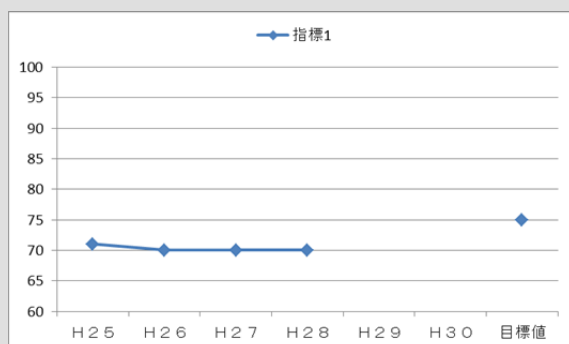
1-3-1 望ましい生活習慣を身に付ける取り組みの推進

健全な生活習慣を身に付けるために、検診や調査に基づき、一人一人の実態に応じた指導・支援を行います。また、家庭・学校が一体となって、「早寝・早起き・朝ごはん」などの生活習慣を身に付ける取り組みを推進します。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H27	H28	目標 (H30)
1	「早寝・早起き・朝ごはんを実践している」と回答する児童生徒の割合	70% 小：71% 中：70%	70% 小：71% 中：70%	75%
2	小児生活習慣病予防検診 [※] の児童生徒の有所見率 [※]	18%	19%	15%



※小児生活習慣病予防検診…将来の生活習慣病（糖尿病、高血圧症などの病気）の因子をもつ児童生徒の早期発見と個別指導を目的とする検診

※有所見率…肥満度・腹囲・血圧・血糖・コレステロール・中性脂肪において何らかの所見のある児童生徒の割合

2. 施策の現状・課題

施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って、施策のさらなる推進を図る。

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
ヘルシースクール推進事業 (ライフスタイル調査)	子どもたちが健康について自ら考え行動し、望ましいライフスタイルの確立を図るため「体力づくり」「望ましい生活リズムの確立」「食に関する指導の充実」について調査を行い、市全体の傾向や学校、個人の生活改善に役立てる。
小児生活習慣病予防検診	児童生徒一人一人に対応した健康指導の充実を図るために、科学的・医学的分析に基づく小児生活習慣病予防検診を行うことにより、生活習慣病の初期段階での予防に取り組む。
すこやか口腔検診	児童生徒の口の中をさまざまな角度から調べる検診を通して、咀嚼の実態を把握し、口腔機能の維持・増進を図る。

1-3-2 食育の推進

調理実習や農業体験などの体験的な活動を通して、食と健康に関する興味関心を高めます。また、食品の安全性などの知識を習得し、食に関する自己管理能力の育成を推進します。さらに、給食の時間をはじめ、授業や委員会活動などに栄養教諭や栄養職員が積極的にかかわり、「食」に関する指導の全体計画のもと学校教育活動全体で取り組むとともに、家庭と連携して望ましい食習慣を身に付ける取り組みを進めます。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H27	H28	目標 (H30)
1	「給食を楽しんで食べている」と回答する児童生徒の割合	92% 小：94% 中：90%	91% 小：93% 中：90%	95%
2	「主食、主菜、副菜がそろった食事をしている」と回答する児童生徒の割合	89% 小：90% 中：88%	89% 小：90% 中：88%	90%

年度	指標1 (%)	指標2 (%)
H25	90	87
H26	92	88
H27	92	89
H28	91	89
H30 (目標)	95	90

2. 施策の現状・課題

施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って、施策のさらなる推進を図る。

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
ヘルシースクール推進事業 (ヘルシースクールプラン・食育)	子どもたちが健康について自ら考え行動し、望ましいライフスタイルの確立を図る中、各学校が自校の実態に応じた食に関する指導の充実に家庭・地域との連携を図りながら取り組む。
学校給食運営事業	食に関する指導と学校給食の管理をより一体的なものにしていくために、給食の食器具や施設設備の充実を図る。また、市川市立学校給食検討委員会などにおいて、広く意見聴取することで、食育や学校給食運営の改善を図る。
教職員研修事業 (栄養教諭・学校栄養職員研修会)	学校において、食と健康に関する指導の中心的役割を担う給食主任及び栄養教諭・学校栄養職員の合同研修会を開催し、給食主任及び栄養教諭・学校栄養職員を中心とした校内の研修体制の充実を図る。

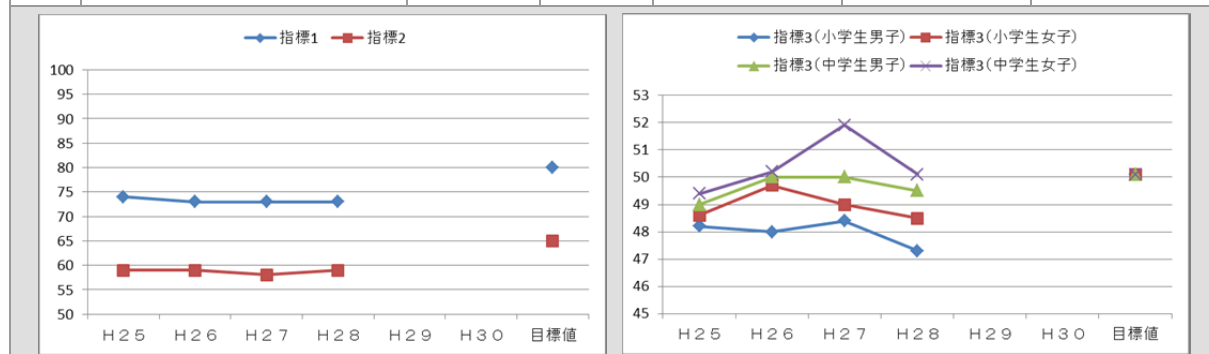
1-3-3 体力向上の取り組みの推進

子どもの体力向上を図るため、運動量が十分確保された体育の授業を実施し、休み時間には外遊びができる環境づくりに取り組みます。また、運動部活動の充実を図るとともに、地域のスポーツ指導者などと連携し、子どもが積極的に運動やスポーツに親しむ環境づくりを推進します。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標				H27	H28	目標 (H30)
1	「運動が好き」と回答する児童生徒の割合			73% 小：76% 中：63%	73% 小：75% 中：66%	80%
2	「休み時間や昼休みに外遊びをしている」と回答する児童生徒の割合			58% 小：70% 中：31%	59% 小：69% 中：36%	65%
3	新体力テスト※の得点平均	小学生	男子	48.4点	47.3点	50.1点
			女子	49.0点	48.5点	50.1点
		中学生	男子	50.0点	49.5点	50.1点
			女子	51.9点	50.1点	50.1点



※新体力テスト…国が、国民の体力・運動能力の現状を把握するために平成11年度より毎年実施している8種目のテスト

2. 施策の現状・課題

施策の実現がおおむね図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って、施策のさらなる推進を図る。
 体育の授業（正課体育）を充実させるとともに、児童生徒が体を動かす環境を整え、運動の楽しさを味わう機会を持たせるように努める。

●基本的方向1 子どもの姿●

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
ヘルシースクール推進事業 (新体カテスト)	子どもたちが健康について自ら考え行動し、望ましいライフスタイルの確立を図ることができるようにする中、新体カテストの結果を分析することにより、各学校が子どもたちの体力の現状を把握するとともに、体力づくりに向けた取り組み結果の検証に役立てる。
ヘルシースクール推進事業 (ヘルシースクールプラン・体力づくり)	子どもたちが健康について自ら考え行動し、望ましいライフスタイルの確立を図る中、「体力づくり」に関わる内容として、場所と時間の確保や具体的な取り組み内容を計画するとともに、数値目標を掲げることで運動やスポーツに親しむ機会の充実に取り組む。

◇施策の方向1-4 社会的な問題に関する認識を深め、意欲と実践力を育む

○重点事業の点検

《施策1-4-2 関連》

事業名	学校情報化研究事業
事業概要	教職員を対象に、情報機器の操作活用能力を高め、児童生徒が情報や情報手段を適切に活用できるとともに、情報モラル教育を推進する研修会を実施する。
計画 (具体的な取り組み)	教職員を対象に、情報機器の操作活用能力を高める研修会及び未受講者教員を対象とした情報モラル教育研修会を計画的に実施する。
実績 (活動及び効果)	ICT活用研修会、情報モラル研修会を実施した。 研修会参加者アンケートの結果、「研修会で学んだことを活用してみようと思う」について、98.6%が肯定的な回答をしており、有効な研修会であったと考える。
進捗	B

《施策1-4-4 関連》

事業名	防災教育推進事業
事業概要	東日本大震災の教訓を生かすため、3月11日を「防災教育の日」として制定し、防災意識を高めるための教育を推進する。また、塩浜学園で実践している「塩浜ふるさと防災科」で得られた成果を教職員研修会等で全校に広める。
計画 (具体的な取り組み)	「防災教育の日」に向けて、「教育長メッセージ」や学級指導の「指導用資料」を各校に配付し、防災教育の機会の充実を図る。塩浜学園の「塩浜ふるさと防災科」の実践例を市内の研修会で伝え、全校に広める。
実績 (活動及び効果)	「防災教育の日」における取り組みは定着してきており、発災時の避難行動（シェイクアウト）の認知度は上がっている。「塩浜ふるさと防災科」の取り組みを研修会で紹介することもできた。今後も、日常の様々な場面における避難行動について、理解、実践力を高め、緊急時に、確実に命を守ることができるよう、指導の機会を設けていきたい。
進捗	B

1-4-1 環境学習の充実

環境についての理解を深め、自らの生活の中で環境を大切にする姿勢が身に付くよう、体験的な環境学習の充実を図ります。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H27	H28	目標 (H30)
1	「環境のことを考えた行動をしている」と回答する児童生徒の割合	81% 小：84% 中：77%	81% 小：84% 中：77%	80%

年度	割合 (%)
H25	77
H26	78
H27	81
H28	81
H30 (目標)	80

2. 施策の現状・課題

施策の実現が図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って、施策のさらなる推進を図る。

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
環境学習の推進	各学校における環境保全、省エネ省資源活動に関する取り組みを推進する。

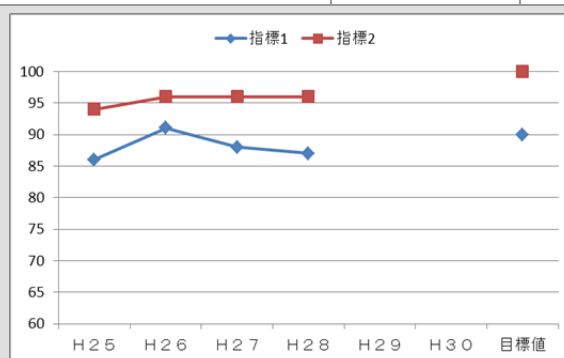
1-4-2 情報教育の推進

多様な情報手段の特性を理解し、情報を適切に活用できる能力を育成するために、発達段階に応じた情報教育を推進します。また、情報発信に伴う責任や情報を判断する力を子どもに身に付けさせるため、情報モラルに関する教育を推進します。さらに、学習においては、子どもが意欲的に取り組めるようICT機器を積極的に活用し、学習効果を高めます。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H27	H28	目標 (H30)
1	「パソコン、書画カメラ、プロジェクターなどを用いた授業や学習はやる気ができる」と回答する児童生徒の割合	88% 小：88% 中：87%	87% 小：89% 中：82%	90%
2	「パソコンや携帯電話などの安全な使い方がわかり、自分を守り、他人に迷惑を掛けないように気を付けている」と回答する児童生徒の割合	96% 小：96% 中：95%	96% 小：96% 中：96%	100%



2. 施策の現状・課題

施策の実現がおおむね図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って、施策のさらなる推進を図る。

今後は、より効果的なICT機器の活用方法の周知に努め、施策の推進に当たって事業の拡充を図る場合は、教育内容の充実と合わせて、教育環境の整備についても検討する。

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
コンピューター教育振興事業	インターネットの利用など、さまざまな学習場面でICT機器の利用が図られるよう、啓発に努める。

1-4-3 キャリア教育の推進

子ども一人一人が、社会的・職業的に自立するために必要となる基礎的な能力や態度を教育活動全体を通じて育成します。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H27	H28	目標 (H30)
1	「将来、自分になりたい職業や、やりたい仕事がある」と回答する児童生徒の割合	78% 小：86% 中：69%	78% 小：86% 中：69%	85%

年度	割合 (%)
H25	80
H26	79
H27	78
H28	78
目標 (H30)	85

2. 施策の現状・課題

施策の実現が図られてきているとはいえない。
学習内容をキャリア教育の視点で捉え直すことが課題である。

3. 対応

小中の連携を促進し、育てたい資質・能力を教科横断的な視点から発達段階に応じて整理し、キャリア発達を支援するように努める。

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
創意と活力のある学校づくり事業 (学校教育三ヵ年計画の推進)	望ましい勤労観・職業観等を育てるために、キャリア教育を重視した学校づくりを支援する。

1-4-4 防災教育の推進

東日本大震災の教訓を生かし、防災意識の高揚を図ります。また、災害時における避難行動などに必要となる適切な判断力・対応力を育成します。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H27	H28	目標 (H30)
1	「災害発生時に、自分の命を守るためにどのような行動をとれば良いか知っている」と回答する児童生徒の割合	92% 小：95% 中：89%	93% 小：95% 中：92%	100%
2	「災害発生時に、自分の身の回りでどのような場所が危ないか知っている」と回答する児童生徒の割合	87% 小：91% 中：81%	85% 小：88% 中：82%	100%

年度	指標1 (%)	指標2 (%)
H25	91	88
H26	92	87
H27	92	87
H28	93	85
H30 (目標)	100	100

2. 施策の現状・課題

施策の実現がおおむね図られてきているが、すべての児童生徒に災害時における避難行動や減災のための正しい知識を身に付けさせることが課題である。

3. 対応

現在の計画に沿って、施策のさらなる推進を図る。
 今後も、家庭や地域と連携しながら、より実践的な防災教育の推進に努める。

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
安全・安心な学校づくりの推進 (セーフティスクールプランの作成及び活用)	児童生徒の「生活安全」「交通安全」「災害安全」についての振興を図る。児童生徒が、安心して学校生活を送ることができるよう、学校安全の取り組みを計画的に推進する。
安全・安心な学校づくりの推進 (安全主任研修会)	児童生徒の「生活安全」「交通安全」「災害安全」についての振興を図る。児童生徒が、安心して学校生活を送ることができるよう、研修会を実施し、効果的で系統的な安全教育を推進する。

◇施策の方向1-5 日本や郷土市川の歴史や文化を学び、国際
社会の中で生きる力を育む

○重点事業の点検

《施策1-5-1 関連》

事業名	博物館教育普及事業
事業概要	郷土の考古・歴史、民俗、身近な自然に関心をもつきっかけづくりを目的として、各種講座及び見学会、体験学習などの教育普及事業を行う。また、博物館だよりや Web ページなどで情報を発信する。
計画 (具体的な取り組み)	弥生時代の市川を紹介する考古博物館企画展を開催するほか、従来に引き続き、学校の授業の進捗にあわせたテーマ展示の開催、縄文体験学習、昔のくらし体験学習、自然体験学習の実施や出前授業、出前展示などによる授業支援等を学校と協力し実施する。
実績 (活動及び効果)	考古博物館企画展「大むかしのいちかわ ～米づくりがはじまったころ～」を7月2日から8月21日まで開催し4,140人が来場した。各館体験学習の実施や出前授業、出前展示については、考古博物館40回、歴史博物館39回、自然博物館103回で学校支援を行うことができた。
進捗	B

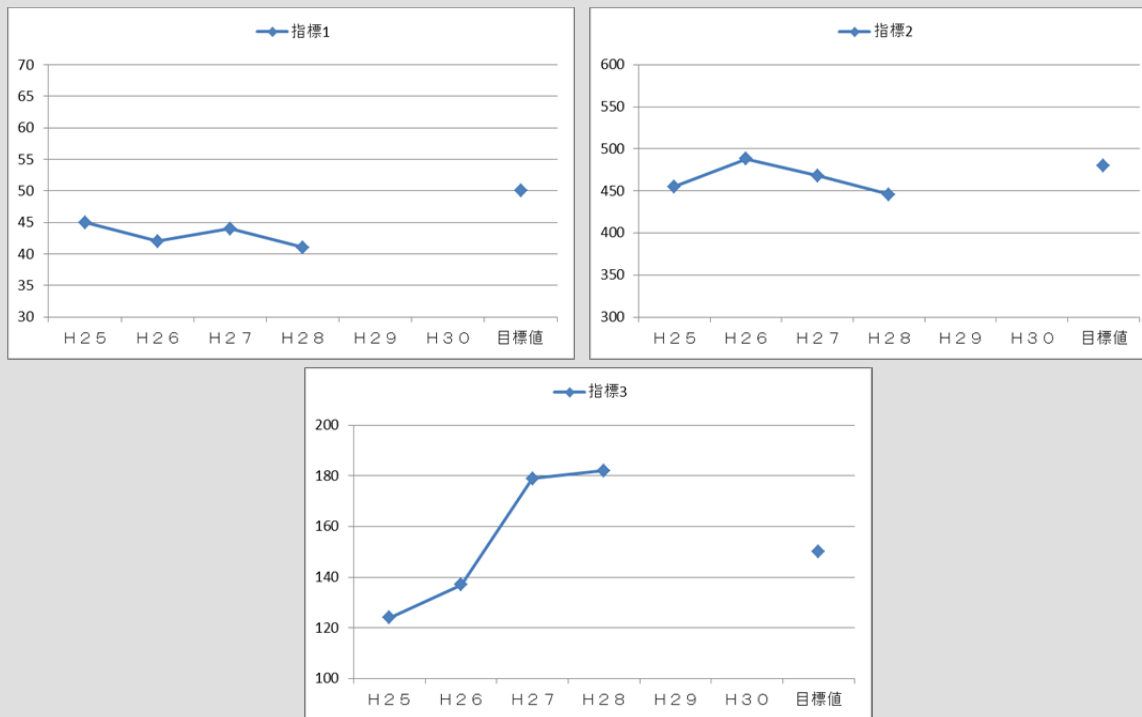
1-5-1 歴史や文化に関する教育の推進

郷土を愛する心と豊かな情緒を培うために、学校、博物館、地域団体などと連携して、日本や郷土市川の歴史や文化を深く理解する機会を充実します。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H27	H28	目標 (H30)
1	「市川市の歴史や文化に関心がある」と回答する児童生徒の割合	44% 小：55% 中：32%	41% 小：52% 中：29%	50%
2	教職員対象の研修会の参加人数	468人	446人	480人
3	学校が、博物館の出前授業・体験活動を利用した回数	179回	182回	150回



2. 施策の現状・課題

施策の実現がおおむね図られてきているが、児童生徒の地域への関心の低さが課題である。

3. 対応

現在の計画に沿って、施策のさらなる推進を図る。
地域の教育資源（人・モノ）の積極的な活用について、教職員に指導・助言していく。

●基本的方向1 子どもの姿●

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
社会科副読本等製作事業	教員による郷土に関わる研究会議を開催し、社会科副読本の製作、および、学習指導のあり方の研究を行う。
部活動等地域指導者協力事業	児童生徒の吹奏楽や茶道等への活動欲求に応えるために、地域の指導者の参画を求め、部活動の振興を図る。
教育普及事業 (歴史や文化に関する研修)	郷土の歴史や民俗・文化に対する認識を深めるため、教職員向けの研修会を実施する。

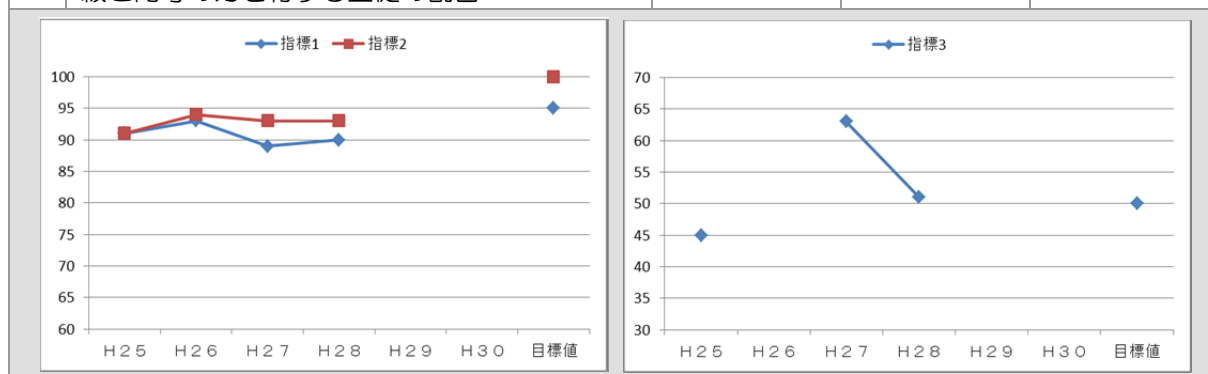
1-5-2 外国語教育・国際理解教育の推進

外国語への興味・関心を高め、外国語を活用したコミュニケーション能力を育成するために、小学校では英語活動などを推進し、中学校では英語の能力の向上を目指します。また、小中学校で連続した指導が行われるよう、連携を強化し、指導内容の充実と体系化を図ります。さらに、異なる文化をもつ人々と理解し合い、協調していく力を育成するために、外国の歴史・文化・生活習慣を学ぶ機会を充実します。

○施策の評価

1. 成果指標

成果指標		H27	H28	目標 (H30)
1	「外国語活動の授業が楽しい」と回答する児童<小学校5・6年生>の割合	89%	90%	95%
2	「英語の授業が楽しい」と回答する生徒<中学校1・2年生>の割合	93%	93%	100%
3	英検（実用英語技能検定）3級ないしは英検3級と同等の力を有する生徒の割合	63%	51%	50%



2. 施策の現状・課題

施策の実現がおおむね図られてきている。

3. 対応

現在の計画に沿って、施策のさらなる推進を図る。
今後も、児童生徒の「学ぶ意欲」を引き出し、授業の満足度向上に努める。

《参考》

主要事業(当該施策の重点事業以外)	事業概要
小学校外国語活動推進事業 (小学校外国語活動指導員の派遣)	小学校へ英語能力を有する外国語活動指導員の派遣をし、外国語活動の推進を図る。
外国語指導助手派遣事業	英語を母国語とした外国語指導助手を各中学校に派遣し、英語学習に対する意欲及びコミュニケーション能力の向上、国際感覚の育成を図る。
中学生海外派遣事業 (派遣・受入事業)	市立中学校の生徒をドイツのパートナーシティ・ローゼンハイム市へ派遣するとともに、ドイツからも生徒を受け入れ、国際感覚豊かな青少年を育成する。